

豐 運 隊

自昭和十八年十一月一日
至昭和十九年三月四日

第八十五警備隊作戰行動概要

(手記)

旧八十五警備隊司令

續木大佐

海軍

0147

八十五警備隊作戦行動概要

(第七三二號)

昭和十八年十一月一日以後ノ概要ニシテ記憶ヲ辿リ作成セシモノナリ
 昭和十八年十一月迄ノ概要(既ニ報告提出済)

昭和十八年十月二十二日「フイレシユハーフェン」ニ於テ場陸セル敵ト交
 戦爾後戦鬪引続キ「サツテルベルグ」ヲ中心トシテ戦鬪継続サレ
 シカ當時陸上戦鬪ニ関シテハ陸軍部隊ノ指揮下ニアリシヲ以テ
 陸軍部隊指揮官片桐中將ト緊密ナル連絡ヲトリ作戰ニ從
 事ス 戦鬪激烈ヲ極メ状況極メテ不利ナル爲メ打崩策ヲ
 講ズル爲メ「ラエ」ヨリ「シオ」ニ轉進セル第七根拠地隊司令部
 ニ状況報告連絡ノ爲メ司令ハ命ニヨリ「シオ」ニ到着セル
 第七根拠地隊司令部ヲ訪ヒ十月二十六日用務ヲ了ヘ十月
 二十八日夜「ラバウル」ヨリ進出セル八十五警備隊ノ一部先遣
 隊川口兵曹長ノ指揮セル二十八名ノ銃隊ヲ率ヒ十月

二十九日早朝「シオ」發陸路「サツテルベルグ」ニ向フ

十月十日「カノミ」着之ヨリ先「サツテルベルグ」ニ在リシ八十五警

備隊ハ命ニヨリ「カノミ」地區警備ニ移リ一部通信隊ハ通

信連絡ノ爲「サ」地區ニ殘留ス

同日「ラバウル」ニアリシ八十五警備隊本隊ノ一部加賀大尉

指揮ノ下ニ「シオ」ヲ至テ陸路「カノミ」着茲ニ於テ八十五

警備隊合同成リ司令之ヲ指揮シ警備ス

十月十二日七根司令官ヨリ村上中尉及「フイレシユ」以來八十五

警備隊司令ノ指揮下ニアリシ他部隊（定員外）原隊復

帰ヲ命ゼラシ「シオ」ニ向テ發

警備地域變更トナリ配備ヲ變更シ部隊ヲ移動ス敵

機ノ跳梁繁クナル

十月十六日命ニヨリ「シアルム」地區警備ニ移ルコトトナリ夕刻「

米
七五

0149

カノミ」發 通信隊の一部ヲ「サ」高地へ連絡確保ノ為派遣ス

十一月十七日 未明「シアルム」到着 正午頃敵奥雷艇ト交戦 負傷 五

警備ニ就ク

十一月十八日 未明敵奥雷艇ト交戦 敵機襲来撃シ

十一月二十日 「カラサ」警備ノ監視隊ヲ派遣ス 敵機約五〇機来襲

夜間ハ奥雷艇ノ銃砲撃アリ

十一月二十五日 病弱者續出シ 伊藤兵曹長ヲ附シ「シオ」へ後送ス

十一月二十六日 「カラサ」派遣隊收容ノ電命ニヨリ陸軍部隊ノ指揮ヲ

解カレ七根司令官指揮下ニ入ル

十一月二十七日 重田少尉引率ノ病弱者部隊「シオ」ニ向ケ發

十一月二十八日 正子「シアルム」警備地發陸路夜間穩密裡ニ「シオ」ニ向テ

十二月一日 「マッコ」ナブリバ」着 七根司令部ニ司令官(工藤少將)

ニ伺候ス

(七三一號)

0150

ナブリバ^ル地區警備ヲ命ゼラレ 爾後七根司令部ノ報告ト同様

十二月四日イ一七七潛入港 艦内物件八々%、他艦外物件流失

十二月九日七根司令官ノ巡視ヲ受ク

十二月十日 朝末敵機来襲 執拗一六〇〇頃焼夷彈ヲナブリバ^ル下

流三十数ヶ所ニ落シ 黃燐ノ煙一円ヲ埋ム

十二月十一日大雨 十二月四日潜水艦ノ揚塔作業ニ於テ暗號書海中

ニ墜落紛失セシヲ以テ本日ヨリ搜索隊ヲ出ス 痔脚氣マラ

リヤ患者續出ス 健康者約半数

十二月十四日イ一六潛揚塔作業豪雨中ニ行フ

十二月十六日未明 艦砲射撃ノ音ス 一三〇〇頃敵火編隊ノ空襲アリ

監視所完成 潜水艦ノ作業順調ニ了ル 夜敵機ノ空襲アリ

真雷艇ニ更附近横行ス

十二月十八日正子頃敵機来襲 潜水艦ノ揚塔作業ハ真雷艇ノ爲メ

艦内物件ノミニテ作業出来ズ

十二月十九日 未明ヨリ終日敵機執拗ニ未襲 夜豪雨トナル 奥

雷艇ノ砲声ス

十二月二十日 敵機ノ未襲繁シ 八十二警備隊「カリ」へ進出

十二月二十日 夜半陸軍ト協同潜水艦運砲筒揚格作業ヲ行フ

三分ノニ成功セシガ奥雷艇ノ為中止奥雷艇ト交戦

十二月二十三日 昨夜未、運砲筒作業豪雨中ニ成功朝未「マーチン」

ノ大編隊未襲

十二月二十四日 昨夜、運砲筒作業成功未明奥雷艇ノ銃撃アリ

一三三〇頃「マーチン」九機編隊ニテ執拗ニ銃爆撃三十分夜

運砲筒ノ處分ヲナス 正子近ク奥雷艇銃撃ス

十二月二十五日 終日敵機執拗 イ一七七潜水揚格作業ヲ行フ成功ス

「ワングカイ」沖一三哩ニ敵輸送船團十二隻北進中、情報ニ接ス

海軍

0152

十二月二十六日 夜奥雷艇ニ隻横行シイ六眷、揚格作業ス「ウレボイ」

「フッシング」方面ニ砲声四十分續ク

十二月二十七日 ロセロロ敵空母ニ隻ヲ廻ル驅逐艦小艇「ウンボイ」島

ヨリ西ニ向フ監視所ヨリ敵輸送船驅逐艦四隻奥雷艇小艇
多数「ウンボイ」島ニ向ヒ北進スルヲ認ム

陸軍部隊「ナグリバ」河下流ニ速射砲陣地ヲ固ム夜イ六眷
揚格作業成功終了ス 今日迄「シオ」ヲ中心トシ二十哩圏

ヲ以テ監視所通信基地ヲ設置シ派遣隊ヲ出スト共ニ警戒セ
シガ戦況刻々緊迫化シ来レルヲ以テ全面的且ツ本格的ニ配備

ヲ固ム一方派遣隊落伍者ノ收容搜索ヲナシ續出スル病弱者
ハ潜水艦便アル毎ニ後送シテ部隊ヲ整頓シ士氣ヲ鼓舞ス

十二月二十八日 通信隊ノ發電機取付作業開始

十二月二十九日 本日ヨリ徹底的ニ補習教育 軍紀教育ヲ行フ

（出来）

七五

0153

敵「コンソリ」機編隊ニテ来襲

(續七三二)

十二月三十日 朝来「ボーイング」ノースアメリカン編隊ニテ近来ニナキ執

拗ナル猛銃爆撃ヲ加フ ニニ〇〇頃ヨリ大豪雨トナリ

谷間ノジャングル宿營地帯大洪水トナリ水勢奔流シテ急流

トナリ幕舎全部潰滅流失慘狀ヲ極ム

十二月三十一日 〇四〇頃漸ク小雨トナリ減水シ始メ被害調査流失

物件多カリシガ陸軍部隊ノ海岸地區ニアリシモノニ行方不明

者数名アリ 敵機時々偵察爆撃シ来ル

十九年一月 一日 〇五三〇所在ノ場所ニテ一斉ニ遙拝式舉行陸軍部隊ハ

タルマンレ河地區迄後退 朝ヨリ「コンソリ」機編隊ニテ来襲 終

日重中爆單發各種機跳梁ス且延百機以上時々西ヨリ東へ

飛翔シ活潑ナリ

一月 二日 陸軍側監視所情報ニヨレバ〇四〇〇頃敵機ハ各種機大

毎 軍

編隊ニテ間断ナク東西北方ニ向ヒ往來繁ク敵大拳揚陸、兆アリ
敵ハ遂ニグニビ岬西一〇哩ノ地矣ニ揚陸巡洋艦五驅逐艦一五
輸送船三〇隻ヲ基幹トスルモノナリ

〇九〇〇七根司令官ヨリ部隊ハ一部ノ水警隊關係、他「マガシ」
ニ向ケ轉進ヲ命ゼラル 夜重要書類焼却轉進準備ヲナス

本日敵輸送船團 敵機ノ往來繁ナリ

一月三日 轉進準備敵機「コンソリ」三十二機戰鬥機數機大編隊
ニテ來襲治潑ナリ

〇七〇〇七根司令官ヨリ轉進ニ関シ訓示ヲ受ク七根司令官
十八軍司令官協議ノ結果出發一日延期トナル 兵器彈藥重
要書類其他全部處分完了

一月四日 敵機與雷艇東方海面ニ往來ス

一六四五部隊ヲ區處シ「マガシ」ニ向ケ轉進開始雨

一編七三二納

一月五日「クマロ」河渡河渠ニ於テ増水、爲數日前出發セル特一通
待機シ居ルニ會シ之ヲ合同指揮シ渡河方法ヲ研究調査スル
ニ敵機ノ状況増水急流、爲不可能

偵察物資蒐集

一月八日「クマ」川急流ニ架橋渡河

一月九日「サンポリ」着

一月十日「サンポリ」發「クマ」河本流架橋急峻登山部隊本部

「ノンバコ」着

一月十一日部隊全部「ノンバコ」到着物資蒐集

一月十二日「ノンバコ」發「ワツプ」着敬言備陸軍部隊駐シシアリ

一月十三日「ワツプ」發「メランピー」着陸軍部隊駐セス

一月十四日「メランピー」發「ウイラップ」着豪雨落伍者漸次増

海軍

0156

シ收容ニ苦心ス。

一月十五日「ウイニッポ」發「ケアリ」ヲ至テ「チンペ」河迄急行ス。
高雨、急「コアリ」ハ陸軍部隊、駐軍セシ宿營地跡ハ洪水
ニ洗ハレ慘狀甚シ即傷病者、溺死セル者其他屍体白骨
累々タリ。陸軍部隊ハ既ニ轉進後ニテ殘留セルモ、若干アル
ノミ、此附近敵機ヨク飛來シ敬告戒ヲ嚴ニス。

一月十六日「チンペ」河發「シシユルカイ」着途中陸軍病院部隊
轉々トシニ空杯ニアリ且ツ落伍者轉々トシテ河岸附近敵機、
偵察銃撃ニ執拗ナリ。食糧極度ニ缺乏シ疲勞亦大、急
落伍者出ツ。

一月十七日物資蒐集不能落伍者收容、敵機執拗

一月十八日「ロンギー」河渡河此附近大河川多ク急流渡河ニ困難
陸軍ノ架設セル針金ニ頼リ渡河、前進困難ヲ極ム陸軍部隊

戦... 轉進ス。敵機ニヨル犠牲者海陸軍共若干出ル。道路泥濘膝ヲ没シ且草葉多ク疲勞ト危険大

一月十九日 高家兩泥濘ヲ冒シテ「ガリ」着八十二警備司令鶴飼大佐ト連絡成リ合同ス以下八十二警備隊ニ全シ

一月二十日 敵輸送船五隻驅逐艦三隻「ロソボイ」島方面ニ向フ

一月二十日 「一」潜水艦三日間奥雷艇、急浮上揚格作業成功セバ「シ」が本夜漸ク成功。忠告者ニ突船ニシク後送人糧食配

給轉進準備成リ第二梯團トシテ鶴飼大佐指揮下ニ轉進開始第一梯團五十一師團本朝五時發 以下八十二警備隊ニ全シ

一月二十五日 「ボアナ」着

一月二十六日 「カイニスル」着

一月二十七日 「ケンバン」着

一月二十八日 「ホコ」着

二月二十日「バンズン」着

二月一日「ワコ」着

二月四日「ヨガヨガ」着 敵揚陸地点、飛行場ヲ眼下ニ見ル

夜間雷ヲ望ミトシテ飛行場作業ヲナシツアルヲ望見ス

二月六日 敵機轉進路近傍飛來頻數 午前晴午後大雨トナリ

道路極クテ悪ク敵砲撃ヲ避ケテテ定宿營地シダマンコロ瓦軒

前進シテ山中部隊全ク濡レテ一七三ノ頃到着殆ド油無出來ズ

疲労力大寒冷陸軍ヨリ若干ノ食糧補給アリ

二月七日 朝食ヨロズ未明出發途中砲撃ヲ受クハ食糧缺乏シ

食糧器具ハ皆紛失頻ク部隊疲勞先任伍長送リ

落込行程六軒谷間ニ宿營ス

二月八日 峻峻ヲ上下シ急ニ津品高渡河「マサ」ニ着轉進收容

部隊由北支隊少將ヨリ計上連絡ス 夜豪雨部隊

河岸近々ニ宿營セシモ、宿舎流失睡眠モ出來ズ瞬時ニシテ河ハ急流トナリ水位五丈増

二月九日 河ニ沿ニ南下「シンゴルカイ」ヨ過ギ増水、爲前進渡河不可能駐々水位ヲ調査セシガ遂ニ宿營ニ決ス

二月十日 増水、急流ヲ全裸体トナリテ隊伍ヲ組ミ渡河食糧缺乏、爲時々物資ヲ蒐集セシモ無シ大小、急流ヲ敵機ヲ警戒シツ、渡河道路悪ク洪水、密林海岸草原地帯ヲ行ク途中陸軍警備隊ヨリ椰子、補給道案内等親切ナル待遇ヲ受ク十五軒、行程ニテ「シンゲリ」陸軍警備隊駐軍地ニ宿營昨夜、猛砲撃手ニテ慘憺タル現狀ナリ

二月十一日 道路極々テ悪ク十四軒行程ニテ「クミカシガ」着

二月十二日 比較的的道路良キモ河多ク急流ヲ斜金傳ヒニ渡渉途中物資蒐集ハキ物使用ニ堪ヘズ裸足、モ、漸ク壇へ苦痛

大 陸軍糧秣配給所ニテ分配ヲ受ケ「ラングマ」着

二月十三日 海岸濕地帯ヲ前進シ渡川多ク渡河ニ注意ス調査隊

ヲ出シ増水セル急流ヲ渡渉シ難行軍濕地帯ヲ行キ

「ボング」着 陸軍警備隊ト連絡ス部隊總員僅カニ

六ノ名トナルモ士氣旺盛夜大雨

二月十四日 兵器、手入ヲセシク敵ニ備、未明ヨリ敵機飛來頻繁

警報ニ出ズニ海軍部隊(第二梯團)一限司令部厚意

ニヨリ「ウジン」迄大發便ニテ海路ヲ行クベク陸軍部隊ヲ

通ジ初メテ連絡成ル「マレー」着 一八三ヨリ二三、マデ

海岸ニテ大雨、下テ發ヲ待機ス大發ニ乗艇セシモ途中

機軸故障 且ツ大雨 敵奥雷艇ニ遭遇警戒シ、前進

二月十五日 〇三三、「マジン」ヲ經テ「ナガタ」着七根司令部

駐軍幕下ニ到着

八十二敬言備隊（司令西林中佐）、厚意ニヨリ部隊全員六〇名
 茲ニ轉進定マ、「シオ」出發時一六〇名「ガリ」出發時一二五名
 「マレー」到着六〇名

轉進中病魔、タメ或ハ敵機ニ重傷ヲ負ヒ又ハ疲勞榮養
 不調、怪我等、タメ二月十五日現在到着セルモ、戦死、戦傷死
 戦病死、落伍者ヲ除キ六〇名トナレリ。

「ガリ」ヨリ轉進開始以來第二十三日目ニテ目的地着

七根司令部ヲ訪ヒ司令官工藤少將ニ狀況報告司令部
 ト要務打合、部隊整理、更ニ第二次轉進「ホーランシヤ」
 迄、第七根據地隊、轉進部隊指揮官ヲ命ゼラル、轉進
 計画ヲ進ム、部隊ハ被服糧食、配給治療ヲ受ク。

二月十六日 未明落伍者五名追及第二次轉進開始先發隊四十三名
 西谷中尉指揮、下ニ一五〇〇頃出發セシム、二三〇〇頃

0162

義勇隊到着

二月十七日 轉進部隊准士官以上ヲ集メ轉進ニ関スル研究会
轉進準備夕食後轉進部隊本部出發ガ長田
棧橋發後水路困難、タメ引返ス

二月十八日 一八〇〇長田棧橋出發 八十七名水路「アレキス」着
陸行ニ移リ「レンピ」ヲ過ギ二一〇〇炊事所ニ惱ム假睡

二月十九日 〇二〇〇假宿營地發。五〇〇密林ニ休眠敵機狀況
並門橋ニヨル渡河、莫ク考慮シ一一三〇發ニケ所、河ヲ
門橋ニテ渡リ二二〇〇頃海岸密林ニ宿營炊事ヲ始ム
過勞、為醫務科員二名落伍

二月二十日 〇五〇〇發部落附近ニテ敵機、猛爆機銃掃射ヲ受ク
日暮ニテ陸軍警備隊、糧秣補給所、連絡円滑ヲ缺
キ「ムギル」ヲ過ギ一九〇〇密林ニ宿營殆ド睡眠トス

二月二十一日、四、發陸軍糧秣配給所ニテ四日分、糧秣

配給ヲ受ク過勞、カム着假宿營降雨ニ惱ム

二月二十二日、雨、爲、五三、發敵機ヲ避ケツ、「ギラギル」河

渡渉「トカイン」ヲ經テ時々小河渡渉、本日、行程

十七軒ニテ強行軍ナリ、「マラス」ニ宿營

二月二十三日、降雨増水、タメ渡河不可能、一ニ三、逆減水ヲ

待テ急流渡河、雨トナル一八〇「マランゲム」着部隊ハ安眠ナラス

二月二十四日、の五三、發数次、渡渉門橋ニヨル渡河ニテ雷雨、中

「ウリゲン」着、部隊始メテ土人小屋ニ收容ス

陸軍、進出部隊アリ厚意ヲ受ク

二月二十五日、雨後、道悪ク、六〇。發食糧之シキ爲「コロンバル」

糧秣配給所強行軍ニ決ス、一〇三。九艦隊司令部

ノ厚意ニヨリ「ハンサ」ヨリ派遣、仁木兵曹指揮スル出迎、

0164

高砂義勇隊十二名ニ會シ糧秣ヲ受取り共ニ七三ノ門橋渡河、
後「コロンベル」着、夜大雷雨、陸軍通信班、厚意ヲ受ク、

二月二十六日

昨夜來部隊ハ豪雨、タメ宿營一睡モ出來ズ、午前

糧秣配給一ニ三、發「ボガジン」「ボギ」ヲ經、増水、

タメ河川橋梁流失シ渡渉困難ヲ極ム、先發隊、

落伍者二名ヲ收容シ、十一名ヲ落伍シ、病弱者八名ヲ

残シ「マジン」出發時、八十五警備隊現在員七十名ナルト「ボギ」着宿營

二月二十七日

足ヲ痛メシモ、漸増、疲勞加ハル、五三ノ出發、途中

糧秣配給所ニテ若干補給降雨増水、タメ河川橋梁

流失シ渡河ニ困難、疲勞、タメ一四三ノ「ボナフタ」ニ宿營

二月二十八日

兩中ノ六〇〇出發、河川増水、道路悪シ、敵機跳梁ス

警言、シ「一四三」「オランベ」着、(マジン)月橋中尉、

「オランベ」警備隊、分遣隊アリ(八十五警備隊編入セリ)

部隊整理時々空襲アリテ警戒ヲ最ニス夜七根司令官
 工藤少將 軍醫長 今井軍醫中佐ト大發ニテ到着
 三月二十九日 部隊ノ追及者アリ 部隊ヲ整頓ス

三月一日 工藤司令官のニ三。旧八十二警備隊司令鶴飼大佐ト
 大發ニテ出發、大編隊、空襲時々アリ 夜ハ雷兩

三月二日 「マダン」地區ニ敵機、空襲激化ス、出發準備
 完成、月橋中尉陸路轉進路、調査、急出發

夜「ウエロク」ヨリ回航セシ大發、玉島丸及同型船到着
 大發ハ荒天、タメ大破、指揮官武田兵曹長、敵輸送船
 十數隻「テリアク」沖止進、電ニ接ス

三月三日 依然トシテ敵機横行ス

(終)

0166

昭和十九年三月二十四日

調製

自一月四日「シオ」
至一月十八日「ガリ」間

自一月二十日「ガリ」
至二月十五日「ナガタ」間
轉進作戦戦闘詳報

自二月十六日「ナガタ」
至三月二十日「ホーランジャ」間

第八十五警備隊

目次

一 一般情勢

二 本作戦開始時_ニ於_{ケル}兵力部署

三 轉進作戰_ニ至_ル經緯

四 經過概要

別表 第一

部隊編成表

ク 第二

兵力損耗狀況

五 戰訓並_ニ所見

ク 第三

轉進路

ク 第四

戰死行動不明者

別表第一 (「シオ」出發時)

本隊編成表

隊名	職官	氏名	下官兵	携行兵器
指揮官	大佐	續本禎弼		拳銃 三
同附	中尉	川本仁十郎		
本部	全	鈴木廣次		
本部	全	池田照夫	八	小銃 四
本部	全	森本敏夫	七	輕機 一
中隊本部	中隊長	西谷銈一		拳銃 二
中隊	附	水野治郎		
指揮小隊	少尉	重田正之	二	輕機 九
第一小隊	兵曹長	川口十一	三	小銃 七
第二小隊		坂本光雄	九	拳銃 五 擲彈筒 五

記事

0169

一 一般情勢

(イ) 十月以降敵ハ「シオ」周邊ニ對シ連日延數十機ヲ以テ執拗ニ銃爆撃ヲ反覆陸上交通ヲ封殺スルト共ニ夜間ハ哨戒機並ニ魚雷艇ヲ以テ海上補給路遮断ヲ企圖ス
十二月ニ入り更ニ驅逐艦ヲ以テ艦砲射撃ヲ加フル等敵重壓ハ時日ト共ニ増大セリ

(ロ) 一月二日早朝敵ハ「カンビ」「フライガイヤ」「ダウエン」三箇所ニ一個師約一萬ヲ揚陸シ「シオ」「ガリ」地區挾撃ノ態勢ニ出テシテ以テ所在陸海軍部隊ハ夫々軍命令並ニ東部警備部隊命令ニ基キ急速「マダン」集結ニ決セリ
一方敵ハ「ワントワト」及「クラットストン」附近ニ航空機ニ依リ一部兵カラ蠢動セシメ背後ヨリ我機動牽制ニ努ム
(ハ) 當時ノ我陸海軍部隊ノ配備並ニ動靜

0171

- (1) 「シオ」地区ニ十師主力七根司令部八十五警言及四十一歩兵團計約九千五百「キアリ」地区五十一師主力約二千五百「カリ」地区五十一歩兵團及八十二警言計七百合計一万三千
- (2) 一月七日ニ十師一個聯隊「シオ」地区ヨリ急速「カリ」地区ニ向ヒ機動開始 續クテ爾餘ノ部隊モ逐次「カリ」附近ニ機動「マダン」集結ノ態勢ヲ整ヘリ
- (3) 敵上陸ノ報ニ接シ中井支隊ハ「ベナベナ」方面ヨリ急速「アウ」アツサ」方面ニ進出敵上陸軍ノ西進阻止ニ任ズルト共ニ中野集團ノ收容ニ任ゼリ

0172

二、本作戦開始時ニ於ケル兵力部署

部隊編成(本隊) 別紙第一編成表

指揮官

部隊

兵力

八十五警司令

本部

本部小隊銃隊一個中隊附屬隊

前衛 後衛

各小隊輪番二日交代

三、轉進作戰ニ至ル経緯

(1) 潜水艦揚塔作業ノ爲水警科一個小隊ヲ殘シ本部
陸警科附屬隊ヲ以テ七根命令ニ依リ一月四日一七三〇
シオ「出發」ガリニ向ヒ五軒屋ヲ經テ海岸道ニ出テ
シガクマワ河増水渡河不能ノ爲山路廻リニ變更シ
ハガンドニ向フ

海軍

(ロ) シヤルム海上警戒見張員ハ二十師團「カラサー」シヤルム方面ニ轉出セルヲ以テ之ヲ撤シ三日本隊ニ復歸セシメ「アタ」リース見張員ハ本隊ニ中途合同スル如ク連絡成ル

0174

四、自一月四日 至一月八日	月日時刻	主要記事
一四一七三〇	八五警シオ在留大部(二六名)カリニ 轉進ノ爲シオ出發	
五〇二〇〇	五軒屋部落着着一五三〇迄休養	
一五三〇	五軒屋部落發テリアタ岬方面敵機ノ 銃爆撃熾烈	
一七〇〇	クマワ川河畔着宿營渡河点調査セ ルモ増水渡河不能ノ爲山廻リニ變更ス	
六〇六〇〇	クマワ川河畔發山道レバガンドニ向フ敵機 ノ偵察執拗ナリ	
一六〇〇	レバガンド南方一料ノ地点竹林内ニ宿營ニ 組ノ道路偵察隊ヲ派シ前進路ヲ調査	

0175

八	〇五三〇	セシム成果「クマワ川」上流渡河点發見「レバ ガンド」ニハ陸軍部隊駐屯シ居レリ 同地發
九	一四〇〇 〇五三〇	クマワ川支流渡河宿營 同地發「サンポリ」ニ向フ
十	一六三〇 〇五三〇 〇八三〇	「サンポリ」着宿營 「ノンバコ」ニ向ケ同地發 クマワ川本流ニ達セシガ増水ナルト急流ノタメ 渡河困難架橋工事ニ二時間十五分ヲ 要ス
十一	一八三〇	行軍路急坂ニシテ部隊ノ集結困難部 隊ハ整頓ト休養ニ當ル
十二	〇五〇〇	「ワツプ」ニ向ケ同地發

一三〇	「ワツプ」着陸軍河部隊駐屯シ居トリ 敵情變化ナキ狀況聽取宿營
十三 〇五〇〇	「メランピー」ニ向ケ同地發
一四一五	「メランピー」着宿營
十四 〇六〇〇	「ウラツプ」ニ向ケ同地發
一一二〇	「ウラツプ」着宿營敵情「シオ」ニ進入ノ情 報ヲ受ク「キアリ」方面ノ敵情並ニ「キアリ」川 渡河点偵察ノ爲將校乍候ヲ出發セム
十五 〇一〇〇	「キアリ」ニ向ケ同地發
〇七三〇	「キアリ」河渡河
一四〇〇	「テインペ」川河畔着宿營
十六 〇五四五	「シンゴル」ニ向ケ同地發
一四〇〇	「シンゴル」着宿營

0177

十七 〇五三〇	「ロイニング」ニ向ケ同地發
一五〇〇	「ロイニング」着宿營
十八 〇五三〇	「ガリ」ニ向ケ同地發
一三三〇	「ガリ」着八十二警司令ノ指揮下ニ入ル

清
年

0178

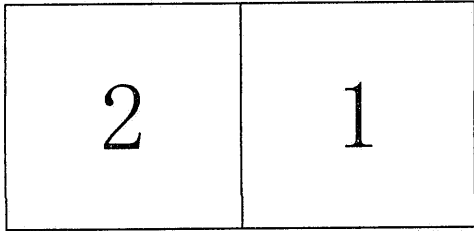
別表 第二

轉進中兵力損耗狀況概要 (三月二十四日調査)

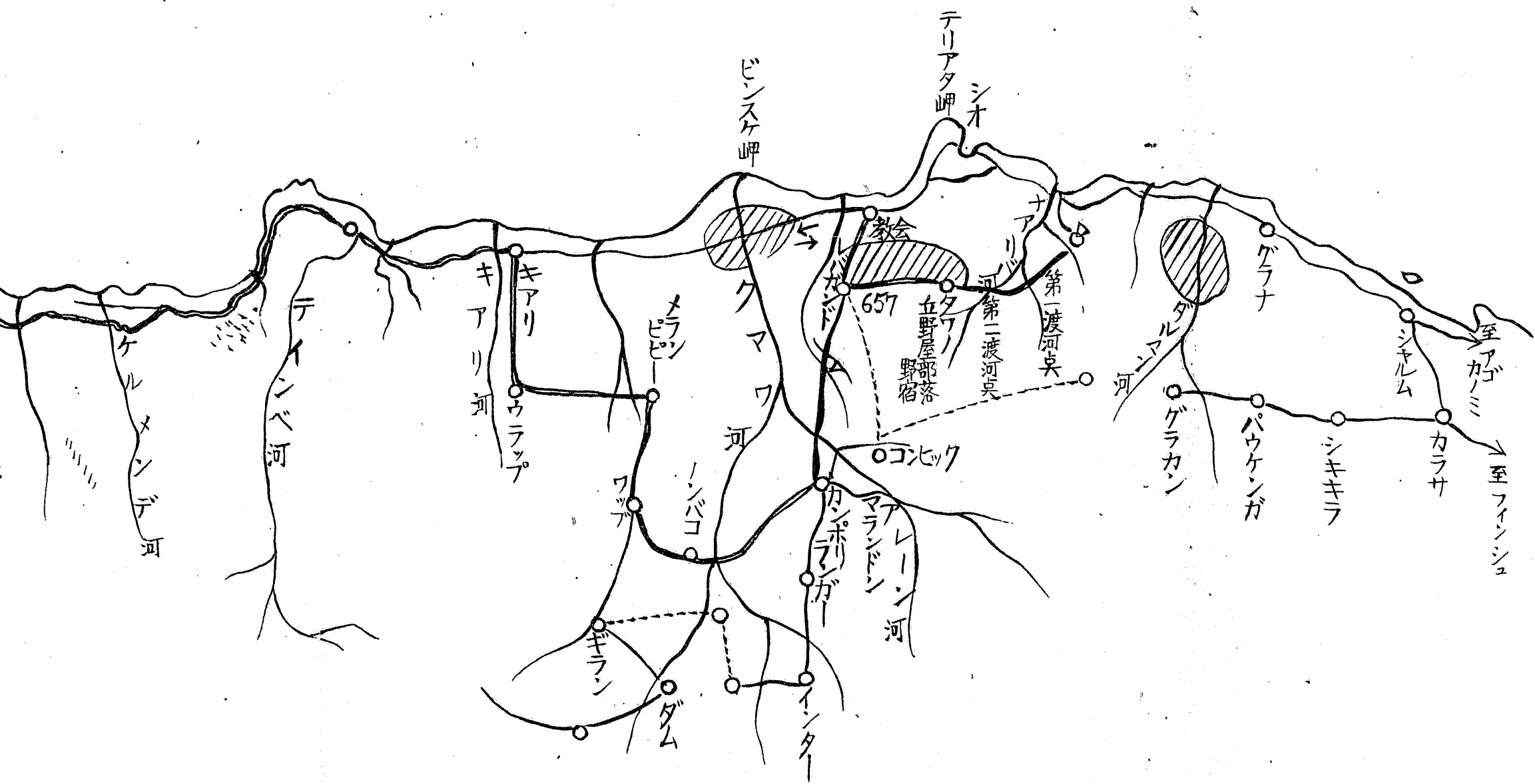
區分	シオ ト カリ 間	戦時 行衛 不明 死 力 着	後送患者	殘存兵力
本隊	一 二 六			
平岡隊	四 四			
伊藤隊	三 二	五 四	三	一 五 〇
大發便	六			
計	二 〇 八			
		74%		
				72%

0179

分割撮影ターゲット

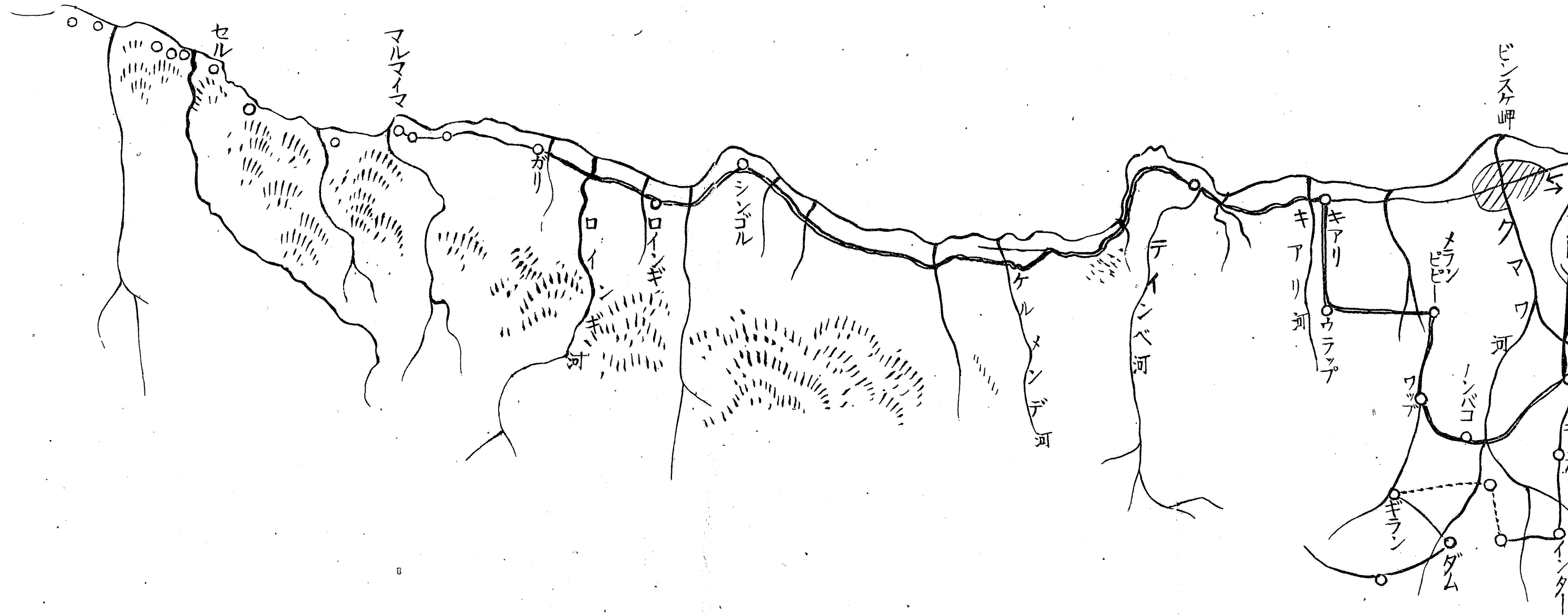
分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A3版以上のため
文書等名	別表第2 「シオ」ー「ガリ」転進路
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

別表第三
『シオ』『ガリ』転進路



(註)

草	濕	河	土	部
	地		人	ミ
			シ	ヨ
			ン	ン
			ン	ン



別表 第四 戦死落伍者

シオ
「カリ」
間(戦死者ヲ含ム) 五五名

官職	氏名	記事	官職	氏名	記事
一曹	久保竹三郎		二曹	吉村 榮	
〃	阪野 鈴男		二機曹	塚原 貢	
〃	碓谷房次郎	戦死	兵長	土屋勝頼	
一工曹	中村 春一		〃	上野公助	
〃	森 鹿雄		〃	森本高夫	
一機曹	山村 榮治		機兵長	川崎金守	
二曹	平田隆美		〃	合田岩松	
〃	奥田勝義	戦死	〃	笹田一雄	
〃	木下邦雄		〃	孫田長治	
〃	西前一夫		〃	藪 義郎	

0182

ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	上水
西村誠二	吉原大三	渡辺和佐夫	耕田二郎	辻村金吾	箕浦正治	森下博太郎	南場光夫	松本健之心	神頭利治	河野道明	森堅夫	高橋徹夫
			戦死									
ク	ク	ク	ク	ク	ク	一水	ク	上衛	上工	上機	ク	上水
大森正一	今枝有馬	小林巳三雄	藤本俊雄	山村保	岩橋成信	那須桂太郎	角谷享俊	近藤親	櫻井登	岡田茂美	撰正	中谷克吉
								戦死				

海軍

0183

一官
水職

〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

吉川	山口	村田	青山	平川	上田	原野	谷中	氏
實	繁雄	定	宗市	次郎	次郎	芳雄	重己	名

記事

官職

氏

名

記事

下士官兵五十四名